

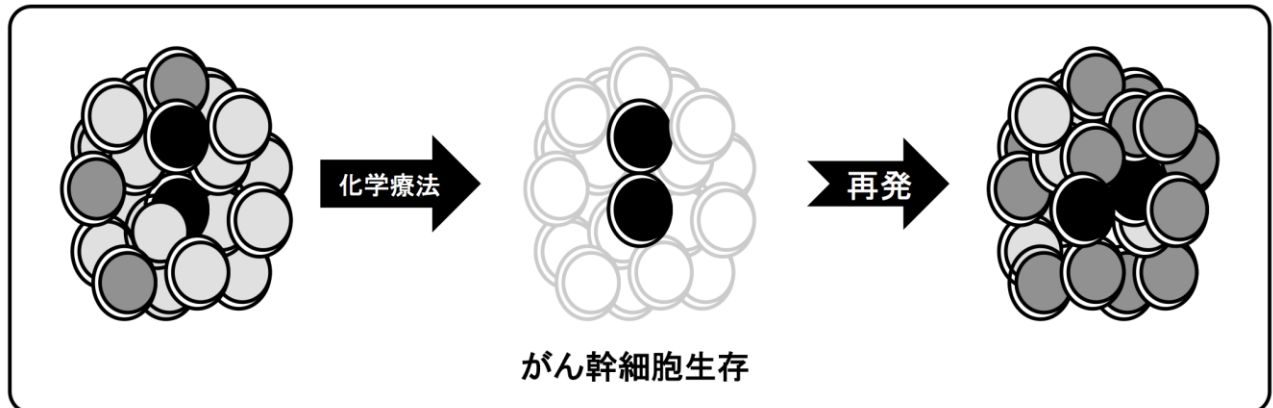
## 婦人科がん幹細胞の特性解明

### 【研究の背景】

がんの増殖・転移・治療抵抗性には、がん組織中の一部のがん細胞集団が関与している『がん幹細胞』説が提唱され、多くの固形がんで研究が行われています。既存の化学療法などの治療では、このがん幹細胞が生存するため、がんの再発につながると考えられます。

がん幹細胞を同定し、その性質を捉える事は、難治性悪性腫瘍のがん幹細胞を標的とした新規治療への発展につながる可能性があります。

婦人科領域における、がん幹細胞研究の報告は国際的にも少なく、今後の発展が大いに期待される分野です。



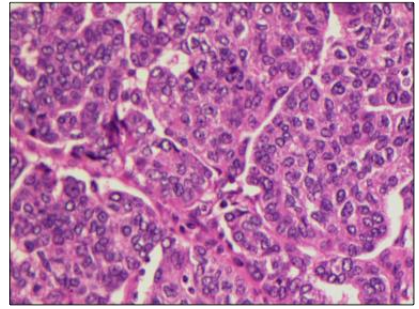
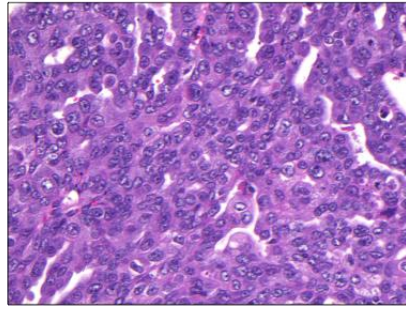
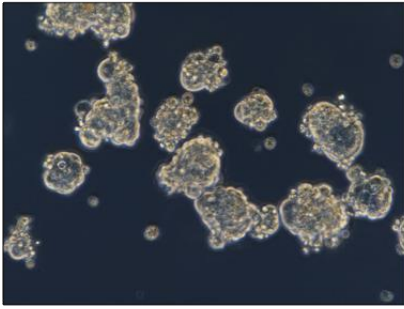
### 【研究の目的】

本研究では、婦人科悪性腫瘍臨床検体からがん幹細胞性質を持つ細胞を抽出し安定的に培養します。この細胞の性質を探索することで、婦人科悪性腫瘍がん幹細胞の特性に迫ること、さらにはがん幹細胞の特異的治療薬の開発につなげる事を目的としています。

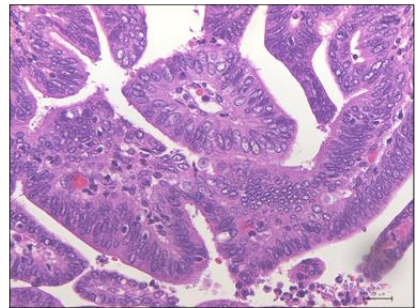
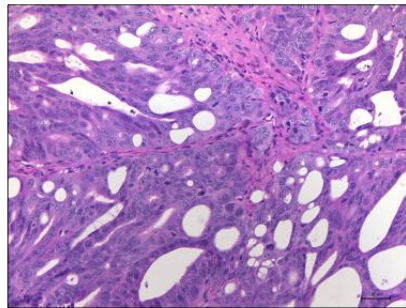
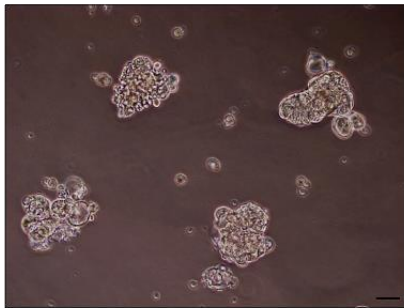
### 【これまでの成果】

- 卵巣がん・子宮体がん臨床検体由来のがん幹細胞としての性質<sup>\*</sup>を有するスフェロイド細胞の安定的な培養に成功しました。  
<sup>\*</sup> がん幹細胞としての性質；①『造腫瘍能』, ②『自己複製能』, ③『分化能』
- 卵巣がん幹細胞の特徴的な制御メカニズムを見出しました。

## 卵巣漿液性腺がん



## 子宮体部類内膜腺がん



スフェロイド細胞

スフェロイド細胞由来腫瘍

臨床検体腫瘍

### 【今後の研究】

- がん幹細胞性質をもつスフェロイド細胞を用い、がん幹細胞特異的治療薬の探索を行い、最終的には臨床応用への発展を目指します。
- 異なるがん腫由来のがん幹細胞を比較検討する事で、各がん腫特異的ながん幹細胞の制御メカニズムを解明します。